

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住 所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/>

特集 SOD様食品 体験者レポート

たった3ヶ月のSOD摂取で 帯状疱疹、むくみ、冷え すべてが解消

愛知県にお住まいの

内木益枝さん（69歳）

初めて内木さんのお宅に電話インタビューをお願いしたとき、電話に出られた方の声があまりにも若々しく、はつらつとしていたので、てっきり内木さんのお嬢様が、息子さんのお嫁さんだろうと思いました。ところが、ご本人だと言われ、思わずいただいたお手紙の年齢欄を確認してしまいました。そこには確かに69歳と記されていました。内木さんはそれくらい若々しかったのです。

「まあ、嬉しいです。これもすべてSODのおかげなんです。本当に感謝しています。素晴らしいのですよね」

と、いきなりお礼を言われ、すっかり内木さんのペース。でも、2年前は体調不良に悩まされて、落ち込んでいたのだとか。

「私、パートで洋裁のお仕事しているんですが、2年くらい前に急に手と手首が浮腫むくんだんです。それ

も、手が上げられないくらいにパンパンになったんです。さらに体の末端感覚がなくなるくらいの冷え症に襲われ、帯状疱疹まで出て、これでは仕事が続けられないからやめようと思ったんです。でもね、なかなかそれが言い出せなくて、つらかったですね」

その心労で、体重が5キロも減少してしまった内木さん。

「もちろん、鍼、整体、マッサージに行きましたよ。だけど、いっこうに良くならなかったんです。もう、どうしようかと思いました」

普通ならここで病院に行って、精密検査等をしてもらうところですが、

「私、お医者さんが嫌いなんです。元々、健康で病氣らしい病氣などしたことがなかったですから、K接骨院の富田先生が私の主治医のようなものなんです。風邪をひいても、歯が痛くても、K接骨院なんですよ」

その接骨院で、具合が悪いならこんながあるので試してみ

は？と勧められ、目にしたのがSOD様作用食品の説明書でした。もう20年も通っている接骨院に数年前から置いてあったSOD様作用食品。そのパッケージはいつも目にしていたはず。

「健康でしたから、説明書まで読むなんてことはしなかったんです。でも、そのときはわらをもつかむような気持ちで、その本を読んてみたんです。読み進むうちに、冷え、皮膚の異変、浮腫みなどの症状にいいんじゃないかと思いましたが、先生に、どうでしょうと聞いてみたところ、すごくいいんじゃないかとおっしゃったんです」

そうしてSODを飲み始めたのは今年の1月のこと。最初は先生の勧めもあって1日に6包から10包、毎日欠かさず飲み続けたそうです。

「そうしたら翌日からおしっこがものすごく臭くなったんです。溜まっていた悪い物がおしっこになって出たんですね。こんなに臭いなんて、相当溜まっていたんでしょ

ね（笑）。1週間くらいすると浮腫みが目に見えてなくなり、体が暖かくてほかほかするんです。1ヶ月で上に上がらなかった手も上がり、带状疱疹も消え、3ヶ月ですっかり良くなったんです。もう、本当に嬉しくて嬉しくて」

尿の匂いも消え、それと同時にSODの量も1日3包に減ったと言う内木さん。今ではお友達に盛んに勧めているそうです。やはり年齢的に体調不良で悩んでいるお友達が多く内木さんの元気にみなさん目を丸くされているとか。

「だって、包丁も握れないくらい手が腫れていたんです。拭き掃除や家事ができなくて本当に困っていたんですもの。もう、一生、こうやって老いて行くんだと思うと、食欲もなくなりますよね。今では体重も増え、仕事も家事も元気にやっています。元氣だと毎日が楽しいですよ。仕事のあと毎日大好きな晩酌ができるって幸せです。SODは一生飲み続けます」

はじける笑顔が声から伝わって

くるようです。

今回は、そんな内木さんが主治医と信頼するK接骨院の富田院長先生にもお話をうかがいました。

「富田先生はSODと丹羽先生のファンなんですよ」

と内木さんからご紹介をいただ



いた富田先生、実はご自身も5年前、網膜剥離で手術をされた経験がありました。

「網膜剥離というのは手術をしても続発症といって合併症に近い症状が出る可能性があるんです。そんなときに丹羽メディカルさんから電話をいただき、お話をうかがっ

ていて、これは術後に飲むといいのではないかと思います、まずは私が愛飲者でした」

医療に精通していらっしゃる先生は、手術後、SODの愛飲と同時に丹羽先生の診察も受けたとか。講演も聞き、これは本物、間違いなくいいものだ確信したそうです。そうして2回目の手術の後からSODを大量に摂取したところ、術後の経過は思っていた通り順調すぎるくらい順調で、いまではすっかり元にもどられたとか。

「それからうちの患者さんたちにもたくさん愛飲してもらっています。みなさんに喜んでもらっています。子宮内ポリープの初期の方には飲ませたら、一発で消えましたし、会社のストレスで神経性の円形脱毛症になった方に飲ませたのも治ったんです。すごいのは胃潰瘍の方に飲ませたら、健康診断で胃潰瘍が治ったあとがあると言われたんです。もう、SODで治った症例の事例は枚挙にいとまがないくらいあります。私も、副作用

の心配が全くなって効果的ということ、安心して勧められます」

SODを接骨院に置くようになって5年。もちろん内木さんにも先生が勧めてはいたのですが、強くは勧めなかったといっています。

「というのは、こういう健康補助食品というのは、いいものからまがいものまでたくさんあるじゃないですか。高価な物ですから、そういう無理強いはいけません。SODの場合は、絶対に効果があると分かっているんですが、仕事柄、気を使います。また、高齢の方はほとんどが年金暮らしですから、それぞれの家計の事情も考慮しなければいけない。ですから、ほんとうに私を信頼して下さっている気

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所

☎0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎03(5787)3498

まで お電話ください。

心の知れた患者さんでないと勧められないですね。内木さんは安心して勧められる患者さんのひとり、あまりにも具合が悪そうだったので、こういうのがありますよと勧めました。SODというのは病気の根源である活性酸素を除去する効果が高いもので、今の世の中、活性酸素は絶えず増える環境じゃないですか。となると、SODは継続して飲み続けられないんじゃないんです。それが出来ると思える方に勧めますね。すべては信頼関係です。病は気からというように、安心できるということが大切です。すよね」

なるほど、内木さんが風邪でも歯が痛くてもK接骨院に行く、とおっしゃった訳が少し分かったような気がします。富田先生の存在も内木さんの元気の素のひとつなんですね。これからはSODとの末永いおつきあい、お願いします。



Book 紹介

非常識の医学書

安保徹 石原結實 福田稔 著

実業之日本社刊

新しい

「家庭の医学書」

今回紹介する本の著者である3人の方は、すべて西洋医学のお医者さんです。しかし3人とも、病気を治すのは薬や手術ではない、最新の西洋医療ではないと言う共通点があります。根本のところ、丹羽先生とも共通しています。安

非常識の
医学書
安保徹×石原結實×福田稔
TORU ABO
YUUMI ISHIHARA
MINORU FUKUDA
Illustration by Shigeo Kato

保先生は免疫学の第一人者。本も多数出版されている新潟大学大学院の教授。石原先生は断食道場などでも有名な自然治療法を推奨する医師。福田先生は消化器系の外科医から自律神経免疫療法を編み出し、推進している医師。この3人の医師が、様々な病気を解き明し、その対処方を教えてくれます。

この本は、いわゆる西洋医学の立場から作られた従来の「家庭の医学書」ではなく、人間の体のメカニズムに沿った、現代の正しい「医学書」と言えるのかもしれませんが。

最初に、みなさんがなるほどと

納得して頂くために自身の著者紹介の文を記載します。

◇ 安保徹 (研究家)

「野口英世に憧れて医師を目指しましたが、研究医時代に担当したがん患者さんの生還率はゼロでした。このままでは病気を治せない」と現代医学に見切りをつけて免疫学研究の道に入りました。病気を治したくて医師を目指したのに治せないジレンマが今の自分の原点です。いくどもの挫折を繰り返して、心やストレスと健康の密接な関わりを自分の体で確認してきました。無理をしすぎない、怒らない、心のコントロールを常に行っている。免疫学の研究からどんなときでも自分の血液を採取して白血球の状態を確認しました。私の研究室が火元になり火事を起こして他の研究室にまで迷惑をかけてしまったときも、教授になかなかいれなくて落ち込んでいたときも、免疫学から体調の変化を観察する事ができました。どこにでもヒントがあるので、人の話をよく聞き、

自分で試して理論を確立させてきました」

◇ 石原結實 (実践家)

「私の先祖は八代前から種子島の御典医、漢方医の家系でした。長崎大学医学部を卒業後、大学の血液内科に入局し、大病院や原爆病院で重症の原爆後遺障害を持つ多くの患者さんを診察して、ともかく悪性腫瘍を殺そうと抗がん剤を3、4種類組み合わせた多剤投与を行っていました。が、治療のいかにもなく、白血球や血小板がどんどん減り、患者さんは最後は肺炎や大出血で死んでいきます。そのため治療法や医療行為に疑問を持つようになりました。そこで世界初の自然療法病院であるスイスのB・ベンナー病院で難病奇病の患者さんをニンジンジュースで治しているのを知り、研修に行きました。コーカサス地方の長寿村では健康の一番の秘訣を学んできました。20年も前から伊豆に自分自身の理論を証明すべくヒポクラティックサナトリウム施設を設立し、食べ

ないことで健康になる、ニンジン・リンゴジュースを使った断食方法や水毒、冷えを解消する生姜紅茶を提唱し、たくさんの方が健康を回復されています」

◇ 福田稔 (治療家)

「尊敬する人は江戸時代後期の水野南北。顔相見の創始者です。黙って座ればぴたりと当たるといわれたほど、人相から未来を予想できた人です。私は水野南北になることはできませんが、診て、聞いて、触って、話すを心がけて患者さんの病状の把握に努めています」



患者さんの顔貌、顔色をよく見てどのように具合が悪いのか、話をよく聞き、体に触れて手足の温かさを調べて生活面のストレスを確認しています。当たり前のことがなによりも大事です。専門は消化器疾患で、胃がんや大腸がん、虫垂炎などの外科治療、悪い部分は手術で切除して治す外科医でした。手術で治ると思ってきましたが、1、2年後には半数以上が再発し、そのうち8、9割は死亡するという、生存率が上がらない現状や術後の後遺症に疑問を持ちました。病気の原因は自律神経の乱れと血流障害免疫力低下によることがわかり、外科医をやめ、刺絡療法だけの治療に専念しました。過労による大病やうつ病を体験しましたが、それゆえに自分の体で効果的な治療を開発してきました」

さて、これらの先生がすすめる、非常識とはどのようなものか、いくつかの項目を紹介しましょう。

●真面目に飲むと

病気を招く薬

薬で病気は治らない。薬は症状を抑えるだけのものという安部先生。日本人は真面目な上に薬好き。ちよつと風邪をひいただけで、病院に行つて薬をもらつてこなければ、という人が多いのが現状。まずは薬の本質を知ることが大事で、戦後、抗生物質やステロイドといった化学合成した強い薬が開発され、効き目が驚くほどに強いものが登場。これこそがどんな病気も薬で治せる、医師に治してもらえると、いう間違つた意識を作り上げたきつかけだといひます。さらに化学薬品の薬は、百害あつて一利なし、と言ひ切つています。大事なのは使ひ方で、どうしようもないときに1、2週間飲むことはあつても、長期間の服用は身体に負担をかけ、病気が慢性化し、治ることとはなく、病気も病院も増え続けていく。どうか薬を真面目に飲ま

ないでくださいと言ひつています。

最後に飲み続けてはいけなひ薬として、消炎鎮痛剤、コレスステロールを下げる薬、血圧を下げる薬、ステロイド、精神安定剤が列記されています。

●薬を出さずに

治療法を教える名医

病気の原因は、今食べたものが原因で起こる食あたりのように単純なものではないというのは石原先生。糖尿病や高血圧は長い間の



生活習慣の積み重ねが原因。がんも医学的に発見されるほどのがん1gができあがるまでに要する歳月は10年から30年かかります。病気はたつた1日のことが原因で単純に起こつてゐるのではないから、がんという結果を手術で切り取つたり、高血圧という結果を薬で抑えても根本的な解決とはならないわけです。病気になるのにはその人なりの原因があります。対処療法でとりあえず薬をだすのではなく、病気になつた根本の原因を患者さんに説明し、その改善方法を医師と患者さんと共同で実行していくことこそ本当の治療医学。そういうことを教えてくれる医師こそ名医ということです。

●体から出るものは

みんな幸せの基

熱、痛み、震え、腫れ、湿疹などが出ると、人は不安になつてそれをなくそうとします。しかし福田先生は「人は体に悪い有害な

のや老廃物は積極的に排出しよう」とします。これは生態系が持つてゐる習性、生物にあるホメオスタシーと呼ばれる調整機能でもあります。風邪の発熱も体がなんとか熱を出して体温を上げ、減つたりインパルスを最大限に増やしてウイルスと闘おうとして起こしてゐる反応なんです」と言ひます。SODなどで体内の免疫機能が上がると、好転反応によつて体内からいろんな症状が噴出するといひますが、それと同じことなのでしょう。

●命ある食べ物こそ

自然の薬

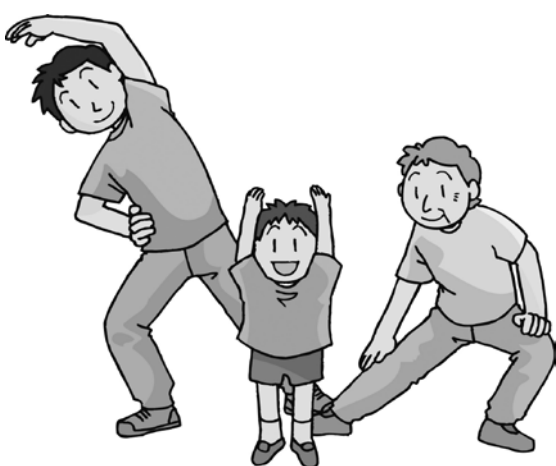
命を持たない食べ物。つまりインスタント食品、加工品、人工ビタミンによる清涼飲料水などのことです。これらの食品で生命エネルギーは高まりません。安部先生は「年月が経過すると共にどんなものを食べてきたかという食事の内容がひとりひとりの体や心に大きく影響を与えてゐると考えら

れます。外国での犯罪者と非行少年の調査では、逸脱した行動やキレやすい行動を引き起こしている原因のひとつは、砂糖の取りすぎやジャンクフード中心の食生活によって栄養素が欠乏し、脳の働き
の低下によるものと報告しています。放火犯の46%が低血糖障害を
起こしていて、低血糖状態では弱いストレスに対しても抑制がきか
ないことが分かっています。いじめや非行、家庭内暴力などの問題
も食とかわりがあると思います。
生涯の食事の回数や量には限界があります。最高の贅沢は命ある食
べ物を摂ること」

続いての項目では、病氣はまず原因を知ることが第一歩だと言います。現代医学がどんなに進歩しても、残念ながら病氣は減つてはいません。むしろ原因不明の難病というのは増え続けています。病院で原因不明と言われてしまえば普通ならそのまま受け止めるしかないと思います。しかし、丹羽先

生もおっしゃっているように、食環境汚染、ストレス、活性酸素など大きな原因が隠れているのが現代社会です。それらによって免疫力が低下すれば、なにかしらの病気を引き起こすと言うことです。

本のなかでは様々な疾患ごとに原因、予兆などが記されています。がん、アトピー性皮膚炎、メタボリックシンドローム、高血圧、高



脂血症、糖尿病、うつ病、膠原病、パーキンソン病、潰瘍性大腸炎など。これらの疾患はまさに丹羽療法のストライクゾーンでもある。

ります。

そして「病氣は体からの改善要求」と題してそれぞれの体のサインから考えられる疾患を紹介し、改善法を教えてくださいます。その改善法は「命ある食事」「運動と刺激」「温熱（冷やさない）」。この3つが改善されれば病氣になる確率が限りなく少なくなると言うことです。

最後に「特別編」として3人の先生に「もしもがんになったらどうしますか?」というおもしろい質問を投げかけてます。当然、3人とも手術、抗がん剤などの西洋治療はまったく選択肢に入っていないませんでした。

SOD様作用食品
体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

TEL 03 - 5787 - 3498

までご一報ください。

非常識の医学書 実業之日本社

安保 徹・石原 結實・福田 稔 共著

西洋医学の行き過ぎた薬への依存、対症療法への疑問、病気の捉え方、食生活や運動の大切さなど、幅広い見地で病気を捉えて、健康維持や増進、改善に向けての提言。

304 ページ ¥1,995

アプローチの仕方、治療法に多少の違いこそあれ、内容のほとんどが丹羽先生が常日頃おっしゃっていることとあまりにも共通している、改めて医療は確実に大きな転換期にあることを実感しました。

SOD様作用食品とは・ 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため、内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽鞠負（耕三）医学

博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病氣は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

丹羽療法を知る一冊

◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」廣済堂

「天然SOD製剤ががん治療に革命を起こす」廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた 医者的心」草思社

「安心の医療・本当の健康」みき書房

「クスリで病氣は治らない」みき書房

「医は仁術なり」至知出版

「丹羽療法全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」リヨン社

「SOD様作用食品の効果」小冊子

